

町の工務店ネット in 四国 2020年定期総会 & オプショナルツアー & 地域材研究会

組織内資料

1/22(水) 12:00集合~23(木) 12:00終了.....[讃岐にて定期総会]
1/23(木) 午後~24(金) 午前.....[土佐 or 阿波へのオプショナルツアー]
1/24(金) 午後~25(土) 午前.....[中規模木造のための地域材研究会]

気象の危機が伝えられ、不透明な経済情勢の只中を進むにあたり、
我々は何を身につけ、何を力にすべきか？ 四国に寄り合って解き明かそう。

2020年代の初頭、本気で臨む総会へ!!

町の工務店ネット・全国総会 in 四国スケジュール

1月22日(水)		[新たに加わった仲間たち]	
11:15	高松空港集合・出発	19:00	終了 チェックイン
12:00	JR多度津駅 集合・空港からのバス到着後、出発 [香川・会員工務店3社の仕事] 菅組・モデルハウス(堀部安嗣氏設計の新モデル)	19:30	懇親会
16:30	こんびら温泉「琴参閣」到着	1月23日(木)	
16:45	全国総会 開会 [招待講演] 秋田・もくす建築社 代表取締役 佐藤欣裕	09:00	基調報告 町の工務店ネット 代表理事 小池一三
17:35	休憩	10:00	休憩
17:50	工務店の自己紹介 [野の国・讃岐の工務店] 菅組・金丸工務店・和住宅・コラボハウス	10:15	今、最もホットな実践報告 ①非住宅・中規模木造プロジェクトの取り組み ②同上 地域プロジェクトの取り組み ③里山のある町角づくり ④街なかハウスの展開
		12:00	終了

オプショナルツアー [Aコース／土佐ツアー] [Bコース／阿波ツアー]

Aコース 1月23日(木)		Bコース 1月23日(木)	
12:20	ホテル 出発(車中お弁当)	12:20	ホテル 出発(車中お弁当)
14:10	竹林寺・牧野植物園にて堀部スクール開講 納骨堂・本坊・庫裏(2019年完成)等 見学と講義	13:10	ご案内・趙海光 六車工務店の仕事①「IDO(井戸)モール」見学 六車工務店の仕事②「五名プロジェクト」見学 六車工務店の仕事③「古民家再生」庭染居」見学
17:00	スクール終了	17:20	徳島グランヴィリオホテル 到着 チェックイン
17:30	オリエントホテル高知 到着 チェックイン	18:00	懇親会
18:00	懇親会	1月24日(金)	
08:50	ホテル出発	08:30	ホテル出発
09:20	土佐派の仕事①障がい者支援施設 あじさい園別館 見学 土佐派の仕事②こうちエコハウス 見学	09:20	ご案内・田瀬理夫 神山町 到着・大基地集合住宅見学 [特別対談] 田瀬理夫×西村佳哲
11:25	高知空港 到着・解散	12:00	JR徳島駅 到着・解散
12:00	高知駅 到着・解散		

地域材研究会

1月24日(金)		1月25日(土)	
12:00	[OP・Aコース] フリータイム 各自昼食、自由行動 [OP・Bコース] 移動 徳島駅→(車中昼食)→研究会会場へ	08:00	集合・出発
14:45	高知県立県民文化センター 現地集合	09:10	吾川森林佐川プレカット到着 見学・勉強会
15:00	地域材研究会 開始	10:50	出発
18:45	オリエントホテル高知 到着 チェックイン	12:00	高知駅到着・解散
19:10	懇親会	12:35	高知空港 到着・解散

※敬称略。スケジュールは変更になる場合がございます。

町の工務店ネット コンセプトブックの変遷



パンフレット、書籍を含め、町の工務店ネットのコンセプトブックは、いろいろ発行されてきました。待望の2020年版は、改訂版ではなく、タイトルに見るように、新しい着想にもとづくものです。今、総会を目標にして、鋭意、制作中です。

百年生きる家と住まい

人が一生に、様々な体験をするように、家と住まいも、地殻と気候変動、政治と経済・家族と周囲の環境・生活様式の変化など、さまざまな影響を受けながら生きています。家はハードです。住まいはソフトです。このパンフは、長い必要と、長い好みと、長い寿命に応えられる家と住まいを生むための材料帖です。昔の家は、一生住まうことを考えてプランしました。しかし、先々何が起こるか分かりません。その時々トレンドに惑わされず、ずっと生き続ける家と住まいをつくりましょう。

そして2020版へ。



[このパンフのキーワード]

家&住まいを、「強」と「用」と「美」の
三つの要素に分けて取り上げます。

「強」がなければ、家は壊れます。

「用」に応えられないと住まいは朽ちます。

「美」がなければ、こころを失います。

夜空を見上げたら、自分が立っている場所と宇宙とは、ダイレクトに向き合っていた。
我々は、地域をイーハトーブ(理想郷=宮沢賢治の造語)に変えられるだろうか? 地域と向き合っていれば、見えてくるものがきっとある。

ミクロ・コスモス地域宇宙を生きる4つの国讃岐・伊予・土佐・阿波のステキ。1/22(水) 12:00集合~23(木) 12:00終了 [讃岐にて定期総会]

2020年度・定期総会 基調報告

あわてず、平たく、100年先を見越して計画しようぜ。
新パンフの台割を紹介します。[町の工務店ネット代表] 小池一三

1 百年生きる家と住まい、全体の序

- 3 「強」の序
- 5 大きな地震
- 7 猛風と豪雨と大雪
- 9 備えとしての耐震建築
- 11 木構造を選ぶ
- 13 構造材の圧縮・引っ張り・曲げの強度を比較する
意外にも、木は鉄やコンクリートより強い
- 14 意外にも、木は火災にも強い
- 15 ヤング係数と含水率
- 17 木の構造を絵と写真で解く
- 21 スケルトン&インフィルで計画する

- 23 「用」の序
- 25 寒さ暑さを四季で考える
- 27 人の身体と温熱環境
- 29 自然室温で暮らせる家
- 31 当たり前になった高断熱・高気密
- 33 住まいの熱源を何にもとめる
- 35 薪ストーヴを愉しむ
- 36 緑を愛でる
- 37 エアコンをどう考える
- 39 換気と室内空気質の関係
- 41 呼吸する住まい・調湿
- 43 土地をしっかりと読む、プランを練る
- 49 敷地条件・家族条件・予算条件
- 51 屋根と壁の設計

- 53 北の窓、春障子の話
- 55 回れる家
- 57 寸法・間合い・ヒューマンスケール
- 59 家の迎 玄関を考える
- 61 土間があると生活が変わる
- 57 木のデッキがほしい
- 59 住まいのへそとしてのリビング
- 61 階段
- 63 キッチン
- 65 水回り
- 67 収納
- 69 住まいの内側の写真

- 75 「美」の序
- 76 建物と風景の写真
- 77 その家は、前を通る人の家でもある
- 79 佇まいということ
- 81 屋根の表情
- 83 壁の表情
- 85 素材 劣化と風化は違う
- 87 長い必要と、長い好みと、長い寿命と
- 89 建物と風景の写真
- 93 あとがき 奥付など

全96ページ A4版

編集・執筆にあたって

全96ページを、1テーマ2ページで綴ります。構成の柱は「強」「用」「美」の三つ。「序」の言葉を、表側の「コンセプトブックの変遷」下段に記しました。これを手渡したら、ユーザーはどんな顔をするだろう、と想像しながら編んでいます。図・写真・イラストも多く、読み応え・見応えたっぷりのパンフを作ります。(企画・編集 小池)

見学する建物は讃岐の3社

[堀部安嗣氏設計による新モデルハウス] 菅組・金丸工務店・和住宅のお仕事



(株)菅組
代表
菅 徹夫



(株)金丸工務店
代表
藤田 薫



(有)和住宅
代表
壺谷泰三

工務店の自己紹介

[野の国、讃岐の工務店] 菅組・金丸工務店・和住宅

[伊予の工務店] コラボハウス



(株)コラボハウス
代表
清家修吾

—— 新たに加わった仲間達 ——

[土佐派の工務店] 勇工務店

[伊予の工務店] 新日本建設

[阿波の工務店] 青木建設



(有)勇工務店 代表
山本 効



新日本建設(株) 代表
井上秀明



(株)青木建設 代表
青木宏次

今回の定例総会から、総会開催地の工務店のお仕事(建物写真と仕事場風景)を、お話いただく時間を設けます。

町工ネットは、各地の独立自営工務店で構成されているネットです。参加工務店は、地域に根ざし、地域の人たちの住まいをつくり、家守りしています。生い立ちも、経営規模も、つくる建物の顔も、内容も、一様ではありません。金太郎飴のフランチャイズではなく、違いがあるから面白い、刺激的だ、学ぶことが多い、と考えます。自分たちに似た工務店を見出すと、お互いに訪問したり、メールで情報(仕様・建築納まり・仕入値、広告ツール)を交換し合ったりされています。その機会をつくるのが各種のイベント。なかでも定期総会は、正式プログラムの他に、膝を付き合わせての話し合いが夜遅くまで尽きないようで、このため事務局は、和室の多い宿所をあえて選ぶようになりました。今回は、讃岐の工務店の薦めで、金毘羅さんの温泉を選びました。

というわけで、その土地で開くなら、まずその地域の工務店の話を聞こう、ということで四国の工務店に登壇いただきます。これまで4社の工務店で構成されていましたが、新たに3社の工務店が加わり、四国4県7社から報告いただきます。



四国は、全体としてみると、海辺の平野部を除くと、小さな盆地のほかは、ほとんど山の国、森の国です。

今、最もホットな実践報告

①非住宅・中規模木造プロジェクトの取り組み

大分・日本ハウジング・馬場鉄心／趙海光・半田雅俊・村田直子・久保潤一
(くわい発表は、24~25日開催の地域材研究会にて)



上図は、中規模木造プロジェクトによる、構造システムの試み。コストを考えて4m材で構成され、自由で伸び伸びとした木造架構の実現を目指して、実施案件による取り組みへと進められています。

②非住宅・地域プロジェクトの取り組み

浜松／入政建築・水崎建築・造居・番匠・スローハンド／設計：村松篤・坂田卓也

③里山のある町角づくり

富士山を望む河口湖畔で建設中のプロジェクト／富士吉田・滝口建築

④街なかハウスの展開

大阪伊丹の街角に建つ、ワンレベル上の4軒の建売住宅を発表します／尼崎・いなほ工務店

招待講演

南の国で、北の国・秋田の工務店に木の家について語っていただきます。

【秋田・(有)もるくす建築社代表】 佐藤欣裕やすひろ



【プロフィール】一級建築士 (有)もるくす建築社/佐藤欣裕建築設計事務所 代表取締役。1984年生まれ。秋田県美郷町出身。独学で建築を学び、スイスやオーストリアのサステナブル建築から大きく影響を受ける。第1回日本エコハウス大賞2015大賞、第18回JIA環境建築賞住宅部門最優秀賞、地域住宅計画賞2013(自立循環部門)などを受賞、環境建築分野を中心に活動。共著に「地方で建築を仕事にする」(2016 学芸出版)。



大曲の家

秋田・もるくす建築社は第1回「日本エコハウス大賞」を受賞した工務店として、知られるようになりました。代表の佐藤欣裕さんは、地元の工業高校を出て、家業を継がれました。当時31歳(現在35歳)。年の割に練達の仕事に、おおっ！とみんな驚きました。

しかも、しっかりした論理に裏付けられていて、堀部さんは彼をして「終始して、科学や技術が情緒に結びついていて、まるで数学者の岡潔(「数学は生命の燃焼によって作られる」と語った、多変数解析函数論を解き明かした世界的数学者)の本を読んでいるようだ」(『建築知識ビルダーズ』31号の対談記事より)と評されました。この記事の中で佐藤さんは、「伝えるべきは、断熱性能ではなく、その先の豊かさ」だと言っています。私(小池一三)はそれから4年間、佐藤さんと距離を置きながら過してきましたが、宿谷昌則さん(東京都市大学名誉教授)が目ざれていることを知るにつけ、これは一度秋田に足を運んで仕事を見なければならまいと意を決し、この10月に佐藤さんを訪ね、お仕事を拝見してきました。

見る・調べる・比べる・習う・
地域性と建築を考える。



「竹林寺本坊 納経所広場」設計：堀部安嗣（撮影：鈴木研一）

1/23(木)午後～24(金)午前 高知土佐 or 徳島阿波へのオプションツアー]

Aコース 土佐ツアー

五台山竹林寺、西奥の納骨堂への
細い道を歩きながら、
建築とは何かを考えよう。



[案内人]
堀部安嗣建築設計事務所
代表
堀部安嗣

堀部安嗣スクール開講！

竹林寺・高知県立牧野植物園にて、要望が高い「堀部スクール」を開催します。何故に、高断熱・高気密住宅に取り組んだのか、さらにその先にあるものについて率直に語っていただきます。テキストは『住まいの基本を考える』（堀部安嗣著・新潮社刊）を用います。事前に読んでご参加ください。

五台山竹林寺／約1300年の歴史を持つ、真言宗智山派の寺院。2013年の納骨堂(2016年日本建築学会賞(作品)受賞)に続き、2019年本坊・庫裡が、堀部安嗣氏の手により設計されました。



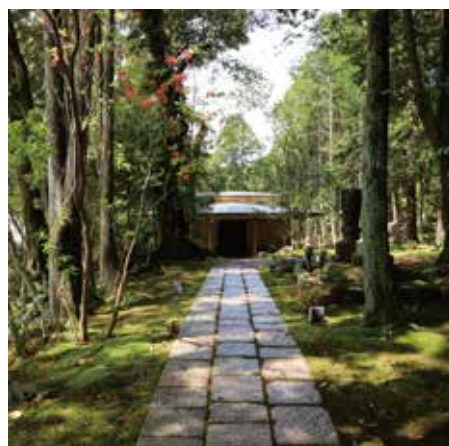
『住まいの基本を考える』（新潮社）



竹林寺納骨堂 夕景



竹林寺本坊・庫裡／撮影：鈴木研一



竹林寺納骨堂に向かう道



竹林寺本坊・庫裡 内観／撮影：鈴木研一

もう一つのハイライト。土佐派の工務店、勇工務店のお仕事を見学します。



障がい者支援施設 あじさい園別館 内観(設計：西森啓史)



こうちエコハウス 外観(設計：細木 茂)

Bコース 阿波ツアー

阿波神山の町営住宅は、
まるでひまわり畑のようだ。

ランドスケープデザインを田瀬さんが担当された、
阿波・神山町「^{おのじ}大埜地の集合住宅」。全12戸の
建物の屋根は一斉に南方に向かい、それはひま
わり畑のような建物群です。



[案内人]
㈱プランタゴ
代表
田瀬理夫



[特別対話]
㈲リビングワールド
代表
西村佳哲

【特別対話】田瀬理夫 × 西村佳哲 [神山町在住／働き方研究家]
著書「増補新版いま、地方で生きるといふこと」(ちくま文庫)ほか。
WEBびおにて「ぐるり雑考」連載中。



大埜地の集合住宅完成イメージ

六車工務店 + 六車誠二建築設計事務所

今の技術と自然素材の良さを生かして、設計・デザイン、施工の両面から、高水準の地域建築を提供している事務所です。今回我々は地元に行かないと見られない、三題の建物を六車誠二さんと自身と六車さんと関係の深い趙海光さんにご案内いただきます。

【建物三題】

下は、今回見学させていただく、近くの農家さんがつくった季節の野菜を中心に飲食、物販7つの店舗からなる小さなモール型マーケット「IDO(井戸)モール」建前時の構造写真です。1間グリッド(およそ2メートル角のマス目)に柱をたて、最大スパン3間(最も広い空間の短辺方向が、およそ6メートル!) 4寸角(柱も梁もすべて115ミリ角の細い杉材)だけで全フレームを構成。原理的には、どこまでも増築が可能でイスラム世界の旧市街のように中庭を囲みつつ一つの街の大きさにまで拡大可能な軸組システムです。

建物見学は、さらに「五名プロジェクト」、古民家を再生した「庭染居」と続きます。



六車工務店の仕事① IDOモール



六車工務店の仕事②五名プロジェクト



六車工務店の仕事④庭染居(古民家再生)

地域材研究会

ひとつとして同じ木がない　ひとつとして同じ星の光りのなかで
目ざめている木はない　木　ぼくはきみのことが大好きだ

田村隆一　第七詩集『水半球』より



テーマ①

非住宅・中規模木造の設計システムの詳細を発表します。

「秋のセミナー」で発表された内容は机上のものでしたが、今回は実施予定の大分の地域施設を対象にした計画案を発表します。中規模木造の魅力は、何と言っても架構の面白さにあり、自在な平面プランを可能にする方法を解きます。さらに、鉄骨造に対抗できるコストについても発表します。

中規模木造プロジェクト・システム計画案プロジェクトメンバー



趙海光
ぶらん・じゅういち代表



半田雅俊
半田雅俊設計事務所代表



村田直子
MOON設計代表



久保潤一
スタジオあさか代表



山辺豊彦
山辺構造設計事務所代表



小池一三
町の工務店ネット代表



佐塚昌則
町の工務店ネット常務

構造

事業展開

1/24(金)午後～25(土)午前 **[中規模木造のための地域材研究会]**

中規模木造に使える地域材の研究成果を発表します。

プロジェクトチームによる、ユニークな設計システムと共に、地域の山を蘇らせるため、基本となる木材質に踏み込みます。この乾燥レベルを各地の地域材産地で実現しよう。



勝野智明
(株)勝野木材
代表取締役社長
(長野県南木曾)



大石千壽
中部機械(株)代表
(徳島・Jパネルと
SDライ方式の
開発者)



藤原富子
(株)吾川森林・
佐川プレカッタ代表
(高知)

木曾1番の製材工場として知られる勝野さんに参加いただきます。勝野さんは、有力な材として信州からまつをあげます。ヤング係数150に達するものがあり、基本ヤング110で提供できると言われます。この材の難点とされる「ねじれ克服のポイントは乾燥にあり」と言われます。

大石さんは、乾燥を極めるとはどういうことか、一身を賭して示してきた人です。しかし、余人を寄せ付けない独創が仇となったのか、ご本人にとって悔しい現実が続きました。釜から出てくるJパネルの乾燥は5%です。中規模木造の明日を拓くには、この人の活躍が必須です。

大石さんの乾燥法を公然と掲げてやってこられたのは藤原さんだけでした。「隠れキリシタン」のように内緒で取り組まれた方は意外と多いのですが…。当日は、乾燥の生データをもとに、現場を担ってきたスタッフと共に、乾燥の実際と、その真髓を語っていただきます。

地域材をめぐる環境

非住宅・中規模木造プロジェクトが発足し、ようやく実施案件(大分の地域施設)の設計計画に取り組んでいます。

大きなテーマは、木材供給と木材質をどのように担保するかであり、目的とする地点は、その地域の材を用いて、それを実現することです。

しかしこれは、そう容易いことではありません。というのは、最近の日本の木造住宅は、無等級材が多用されるようになり、ヤング係数や含水率など、木材質を問わなくなったからです。地域ブランドを言いながら、実際には地域材への関心が希薄になりました。

阪神淡路大震災を経て、建築基準法が改正されました。耐力壁を用い、土台からの引き抜きに焦点整合すればクリアすれば通るということで、結果的に木材質を厳密に問わなくなりました。政府施策である、地域ブランド化事業は外材まで含まれるようになり、有名無実化されました。

非住宅・中規模木造の動き

森林環境税が浮上し、木材の「出口戦略」が問われる中で、非住宅・中規模木造に関心が向くようになりました。業界的には、新築住宅の減少が待ち受けており、2020年はオリンピック施設に木が多用され、またここ数年、CLTへの過度の傾斜もあって、建築マーケットの問題(非住宅・中規模木造は、工務店の技術でこなせる)として、俄然、注目が寄せられています。木材質について見るなら、住宅レベルではOKでも、中規模木造となるとそうは参りません。

木造の魅力は架構の面白さにあるとするなら、ヤング係数も、木材乾燥も問われざるを得ません。この取り組みが競争激化する中で差別化を図るには、架構の面白さとあいまって、木材質の高さに独自の境地を見出すべきで、それは剛性一辺倒のCLT対抗においても、さらには森林環境税が持つ、地域性重視の流れからも、正鵠を得た取り組みと言えないでしょうか。

接着重ね梁(BP材)と無垢材の関係性について

構造建築家の山辺豊彦さんは、中規模木造ではBP材(重ね・束ね材)が有効だと言います。「何故BP材なのですか?」とお聞きしたら、それはひとえに、大径材の乾燥は無垢材では難しいので、ということでした。含水率が高く、ヤング係数が低い材だと表面剥離が起こる可能性が高いそうです。しかし、ヤング係数の高い乾燥材なら、もともと無垢材でもやれるわけで、また、BP材の要諦は乾燥にあるのですから、何れにしても木材乾燥は避けて通れない問題といえます。



平角材の乾燥後の含水率 左から8.5%・9%・10.5% 材の芯部を水分計で測った含水率。



じっくりと材を枯らして用いた木造建築の現代的な方法

地域材研究会を開く予定の、高知の藤原富子さんの工場(佐川プレカッタ)なら、高知のヒノキや杉材、難しい信州からまつさえも無垢材でやれる技術に近づいています。過熱水蒸気方式によるこの工場は、王子製紙の依頼により、最も乾燥が困難とされた道産トドマツの試験乾燥に成功した工場として知られます。同工場は、乾燥では、お金を取れない状態が長く続いてきたことから、邸別乾燥に踏み切られました。大径材も角材も板材も同じ釜で乾燥されていて、邸別依頼に基づいた材の歩留まりは、ほぼ100%。良くて70%、油断すると50%と言われるので、これは驚くべき数値です。中規模木造プロジェクトは、この工場と交渉し、各地の山の材を、試験乾燥するのを業務の一つとしていただくことにしました。このプロジェクトの未来形は、それぞれの地域材を用いて「街に、木の建築」を実現するのが目的です。



建築後11年目の状態。びしりと納まっています。



乾燥後プレカッタされた状態。割れがなく見事に仕上がっています。



乾燥釜から出てきた状態。平角材、正角材、板材も一緒に乾燥されています。



撮影:佐川プレカッタ